

会報	Mt. Iwaki Conservation Association	2019年12月21日 発行
第80号	<b>岩木山を考える</b>	岩木山を考える会 会長 小堀英憲

## 第26回写真展「私の岩木山」開催と

### 出品、会場展示のお願い

毎年恒例の写真展「私の岩木山」を下記の要綱で開催します。

日時 2020年2月7日(金)～9日(日)

午前10時～午後5時(最終日は午後4時)

開催場所 NHK 弘前放送局ギャラリー(弘前市下白銀町2-1-6)

出展準備 2月6日(木)午後3時から

※出品する方は同封の出品票に必要事項を記入の上ご持参ください。

出品票のみ早目にお近くの監事に提出下されば助かります。

## 2020年度岩木山を考える会総会開催のご案内

日時 2020年4月5日(日) 午後1時30分～3時30分

場所 弘前市民会館 中会議室

総会終了後、1時間程、懇親会を予定しています。

多くの会員の皆様の出席をお願いします。

## 第6回岩木山講座

### 岩木山の雪上観察会～平沢右岸尾根～

岩木山南山麓でも湧水が多い平沢の右岸尾根を散策します。標高400m付近まで圧雪の雪原を歩きながら、木々の葉痕・動物たちの足跡・昆虫のサナギなどを観察するものです。

この時期の山麓雪原は、個人ではなかなか歩く機会が少ないと思います。岩木山を考える会では、雪原の散策を楽しんでいただきたく企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

- ・日時:令和2年3月22日(日) 10時～12時
- ・募集人員:先着20名様
- ・集合場所:午前9時50分までに岩木山総合公園駐車場

(石坂洋次郎文学碑案内標識箇所から入った駐車場)

- ・持ち物装備:防寒着・長靴または登山靴・準備できる方はカンジキ
- ・参加費:200円(保険・資料代)
- ・申し込み先:金枝壽孝(かねえだ) (TEL090-8896-7977)
- ・申込締切日:令和2年3月19日(木)21時



動物の足跡



枝先のくぼみで春を待つ昆虫



セッケイカワゲラ



2019年3月実施状況

## 第40回「東北自然保護の集い」に参加して

阿部玲子

10月26日～27日花巻市大沢温泉湯治屋で開かれた。参加者は54名(青森6、秋田1、宮城15、山形1、福島7、岩手19)青森からは青森市(田中洋一・優子夫妻)、弘前市(竹浪純、金枝壽孝、阿部東・玲子夫妻)テーマは「東北の自然保護40年を総括する」であった。特に今回の集いでよかったのは岩手大の学生が10名参加、どの場面でも彼らの若々しい声が聞けたことだと思う。準備段階から、会場づくり、運営にいたるまで大きな力を発揮していた。

26日・・・各県からの「自然保護40年の総括」報告、分科会、交流会、オークション

27日・・・分科会報告、今後の取り組み

① 各県の「自然保護40年の総括」(青森は田中洋一さん)

私なりに大きく3つに分けてまとめてみた。

【その1】 1951「日本自然保護協会」発足

- ・大規模林道での問題勃発(天然林の伐採 etc.)
- ・自然保護運動が盛り上がった

【その2】 1987「リゾート法」(総合保護地域整備法)成立

- ・ゴルフ場、スキー場、ホテル乱立
- 1994「岩木山を考える会」発足
- 1989 岩木山麓マスタードプラン策定
- 1997 弥生スキー場建設計画頓挫。弘前リゾート開発(株)解散

【その3】 大規模工事台頭(ダム)

- ・バブル崩壊・経済の行き詰まり。
- ・大量コンクリートを使うダム建設

② 分科会:A.自然エネルギーと自然保護 B.野生動物とどう付き合うか C. 外国人観光客の対応

私はAに出た。風力発電の害(?)が沢山出された。作る前は沢山の樹を切るなど自然を破壊する。出来てからは野生動物、人体に及ぼす影響が出された。風力発電についてはきちんと知る必要があるようだ。

③ 夜は交流会、オークション。楽しかった。かなりの強行軍で高齢者の私はいささかしんどかった。でも、又知り合いが出来、実りの多い集いになった。車を引っ張ってくれた竹浪さん、疲れたと思う。感謝である。来年度は10月24日～25日宮城のやくらい林泉館で開かれるそうだ。

## 岩木山講座③ 石切沢観察会と秋のキノコ汁

竹浪純

日時:10月5日(土)10時～14時

秋晴れのいい天気の中、一般会員4名と幹事6名の計10名が百沢スキー場駐車場に集合。開始前に駐車場隣の空き地で土岐さんがサモダシを大量に収穫。昼食のキノコ汁はこれでひと安心。10時、小堀会長のあいさつで観察会を開始、阿部先生の解説を交えながら進む。花は少なく、実やキノコの観察が中心となった。途中アマタケ(イグチ)がたくさん生えており、収穫に忙しい人も。男性ばかりだったので、気になった2か所の急坂はロープを張らずとも無事クリアできた。アケビもあちこちに実が見られ、これも収穫。スリット式の大きな石切沢堰堤を眺め、12時に小森山入口の集落に到着。途中ハチに刺された人が出た。救急用に、ポイズンリムーバーの持参は必要だ。

2台の車で、お借りした日本野鳥の会弘前支部が管理している舞鶴荘へ移動。武尾さんらが準備してくれたおいしいキノコ汁を食べながら歓談。大館から参加された木村さんからポポーの提供があった。14時過ぎに終了。

## 石切沢観察会体験記

佐藤義広

令和初の講座参加です。キノコ汁の美味しそうなお題目につられ、定年間近い窓際族は久々に山と戯れたいと思ったのです。

(お岩木山<sup>いわきやま</sup>は見てござる！)

石切沢とはもしかして弘前城石垣のモドコの一つなのでは？そんな疑問は講座スタートとともに霧散し、山ふところに布かれた数多のキノコの繁殖状況観察となったのです。いや、観察というよりは争奪戦の様相。自分の浅ましさを恥じつつも忘己利他の精神は何処へ・・・。

(お岩木山<sup>いわきやま</sup>は見てござる！)

途中から降りだした小雨は森の静寂をより一層際立たせ、秋色の草木たちはただひたすら穏やかでした。阿部先生の講釈に森の奥深さと命の営みを感じつつ、心地よい汗も・・・。

(お岩木山<sup>いわきやま</sup>は見てござる！)

3 時間ちょいの山旅はあっという間に過ぎ、日々の生活に追われるばかりの下界をすこし忘れさせてくれました。そして無事、山の恵みを授かったことは「岩木山大神」の聖なる畏れなるご神託だったのでしょうか？

締めキノコ汁とポポーも美味しかった。

## 岩木山講座⑤「廻堰で渡り鳥と岩木山を観る」報告

小堀英憲

11 月 17 日、昨年同様日本野鳥の会弘前支部の方の案内で総勢 11 名の参加で行いました。当日は晴天でしたが強風がすごくて集合場所の駐車場からつがる富士見荘へ移動し、ホテルのロビーをお借りして挨拶と野鳥の会の方に行動の予定をお話して頂きました。

野鳥の会の方の事前の情報では今年廻堰は数が少ないので周辺の水田に入っているハクチョウやガンを見て砂沢のため池のカモ類を見て回ることにし、3 台の車に分乗し移動しました。途中渡り鳥のカラスのミヤマガラスとコクマルガラスを見ながら最初に着いた新和地区の水田にはオオハクチョウ、マガン、ヒシクイや昨年も見られたシジョウカラガンの他、今年はハクガンという数少ないガンを見ることができ非常にラッキーでした。



砂沢ため池ではオナガガモ、マガモ、コガモ、カワアイサ、ミコアイサ等カモの仲間の他、カワウが見られました。毎年渡り鳥が来てくれるこの地に台風 19 号のような災害が起こらないよう祈りながら、岩木山を見るのを忘れていたので帰路を変更し、ゆっくり岩木山を見ながら帰りました。

## 廻堰の観察会に参加して

川村 美智子 談

初めて参加しました。鳥の繁殖の話がおもしろく、マガモのオスの色の鮮やかさがすごいと思いました。ミコアイサのパンダのような姿も見たかったです。

## ハクガンを見てきた ～渡り鳥の観察会に参加して～

竹浪 協子

寒いだろうと予想していた。なのでわたしは、純さんと共用の通称「歩くシュラフ」と呼んでいるモンベルの丈の長いダウンジャケットを着込み、ダウンのオーバーズボンを装着し、冬山用の帽子を装着しマフラーを装着した。しかしそれでも寒かったので、普通に初冬の恰好をしてきた人たちは本当に寒かったと思う。しかも煽られてよろめいてしまうほど風が強かった。津軽平野は風を遮るものがないので、風は我が物顔



にいよいよ強く吹き抜けていくのである。野鳥の会の人々が解説してくれるから行かないかとずいぶん前から純さんに誘われて、トリコなどを見てそれほど楽しいんだがね？と半信半疑で行った野鳥観察会であったのだが、本当に楽しかった。

鶴田町には大きなため池があり、冬枯れの田んぼが広がって渡り鳥の中継地になっている。今日だけで、マガン、ハクガン、ヒシクイ、ハクチョウ、シロサギ、ダイサギ、ノスリ、マガモ、が見られた(もっとあったかも)。中でもハクガンは美しかった。だいたいわたしは、白いガンなんていたっけか？というレベルで、あれはガンだと聞いて心から驚いてしまった。双眼鏡で確認した瞬間思わず「わあ！」と声が出たほどである。

ハクガンは体が白く羽の先だけが黒く本当に美しい。鶴田からは1泊くらいで去ってしまい、秋田の八郎潟で越冬するのだそうである。そして春に北に去る時には、数万羽もの大群が、またこの地を經由していくということなのである。

ガンの群れは田に残る落穂や草を食べるのに忙しくしていたが、観察会に参加した中のひとりがカメラを構えて車から降りて群れの方に歩きだしたら一斉に飛び立った。相当な距離があるのに野生の動物は警戒心が強いのかなと思ったのだが、野鳥の会の人々の説明によれば、ガンは群れの中の一羽が飛ぶと全部飛んでしまう、大きな群れになると神経質なのが必ずいるからそいつが飛ぶと飛んでしまう、ハクチョウと一緒に時だとか群れが小さい時だとかは案外近くに行ける場合もあるんだけど、ということであった。カメラのレンズに反射する光のために飛び立ってしまうということもあるということだった。

わたしはハクガンの美しい編隊にすっかり魅了されてしまい、ずっと双眼鏡を握っていた。ガンやカモのオスは今の時期に伴侶を探すため、人生(鳥生)上、今が最も美しくなっているのだそうだ。そして一度決めた伴侶とは生涯連れ添い、共に生きるのだそうだ。

どこで読んだか忘れてしまったのだが、「雁風呂」という季語がある。ガンは渡りの時海上で羽を休め

るときにつかまる木の枝をくわえて飛んでくるが、海を渡り終えると要らなくなった枝を海岸に落としていく。そして春にまたその枝をくわえて去るが、冬の間を命を落とした数だけ海岸に枝が残り、漁師はその枝を集めて風呂をわかす、という小泊だったかそのあたりの言い伝えだったと思うのだが、そんなことを思いながらハクガンを見ていた。春に、北に帰る群れもぜひ見に行きたい。

野鳥の会の皆様、岩木山を考える会の皆様、ありがとうございました。

## 絶滅したと思われていた岩木山の アオモリトドマツを新たに発見！

竹浪 純

日本植生学会大会で弘前を訪れていた横浜国大の若松先生は、東北のアオモリトドマツの研究をしている方です。その先生は、私たちがそれまで見守っていたにもかかわらず、残念ながら〇〇年に枯れてしまったアオモリトドマツがあるということを当会のホームページで知っていたので、学会終了後岩木山スカイライン 8 合目に登りその付近を探してみたところ、なんと新たに1本のアオモリトドマツを発見したのです。先生によると40年ほどの稚樹だとのこと。

若松先生から私宛に、皆さんは確認していますか？とのメールが10月15日に届きびっくり仰天。阿部先生はじめ数人で現地に駆けつけあちこち探し回った末、10月30日に私たちもようやく確認することが出来ました。いやあうれしい。

早速、県自然保護課に発見の経緯と位置情報を報告しておきました。現在、発見したものと八甲田山に生えているアオモリトドマツが同一のものなのか異なったものなのか、DNA鑑定を若松先生に依頼しているところです。



## 弥生ネットが「弥生 スキー場跡地紹介リ ーフ」を作成

竹浪 純

弥生ネット(弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク)が2001年に運動を始めてから早いもので20年が経とうとしています。スキー場開発工事で一時丸裸になった跡地は今では緑深い林が形成されてきました。弘前

**観察会にご参加ください**  
観察会では、町にはないさまざまな自然を近くで見ることができます

↑ ニホンザリガエリ ↑ アカガリ ↑ センブリ  
↑ セミのぬけがら ↑ ヒトツバキヤクワ ↑ シシタカラ

**考えよう** ここで、みんなでできること

弘前市主催で、年2回(夏・秋)「親子で観察会」を実施しています。観察会の案内は、6月と9月の弘前市広報に掲載されますので、指定された締切先にお申し込みください。→申込コードで確認できます。参加費・費用、歩きやすい服装であれば誰でも参加できます。岩木山らしく広がる豊かな自然をどう活かして利用していくかを一緒に考えていきましょう。(2019.11)

**弥生の森** (弥生スキー場跡地)  
来て、見て、触れる  
すぐ近くにある自然です

**弥生の森** (弥生スキー場跡地) をご存じですか？

弥生ハイランドハウス  
前の駐車場から左手前の方に、弘前市が所有する26ヘクタール(弘前公園の約半分の広さ)の森があります。弘前市は、この森の利活用のしかたについて、市民の皆様とともに考えたいと思っています。

発行：弥生ネット(弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク)  
【連絡先】弘前市野田2-1-1 コープあおもり弘前地域 (弘0178-1851-1814 竹浪)

市は、市民にこの場所をもっと知ってもらおうと、年2回観察会を開いており、弥生ネットの構成メンバーである私たちの会も協力してきました。ただ、なかなか市民にスキー場跡地の存在が認識されていないのが現状です。

そこで、もっと多くの市民にこの自然豊かな場所を知ってもらおうと、このたび弥生ネットがA5判4ページのリーフを作成しました。リーフでは、跡地を「弥生の森」と名付け、その場所と、ここを弘前市が手に入れることになった経過、豊かな自然の様子、観察会の案内などが分かりやすく記載されています。観察会は、毎年6月と9月に行っており、当会としても、春になったら会員の皆さんにもリーフをお届けする予定です。是非一度「弥生の森」に足を踏み入れてみてください。

## 今年も弥生の森（スキー場跡地）で毎木調査と野鳥調査を実施

竹浪純

弥生ネットが2010年から行っている毎木調査、2013年から始めた野鳥調査を今年も実施しました。調査には当会の協力が不可欠です。今年は11/22の毎木調査に齋藤幹事と竹浪が、野鳥調査は11/2に野鳥の会弘前支部の役員でもある小堀会長と土岐幹事が行いました。

毎木調査では、30本の対象木の胸高の平均周囲径が2.2cm大きくなったことを確認。2010～2019の10年間でなんと20cm太くなりました。一方、野鳥調査では、ノスリ、アオゲラ、シジュウカラ、ウグイスなど17種を確認。13年からの7年間で述べ65種の野鳥を確認しています。

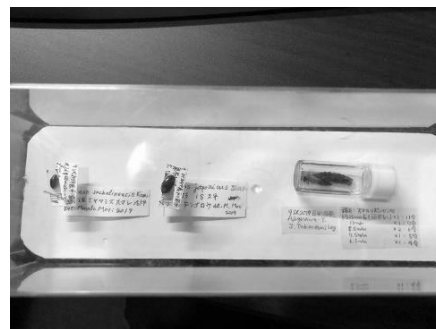
## 9/10 長平湿地調査

竹浪純


長平湿地は長平登山道を登り、標高1020m付近の平坦な部分にある2段の小さな沼を含む湿地帯で、長平登山口の標識には「種蒔苗代」と名付けられています。沼の様子は岩木山頂からも見ることが出来ますよ。会では、そこにある(いる)動植物の調査を毎年継続的に行っています。今年は、皆さんの都合が合わず竹浪が一人で調査に出かけました。

(9:00) 鱒ヶ沢スキー場→(車で)→(9:25) 石神様→ここから徒歩→(10:35) 長平湿地帯(種蒔苗代) (12:00) 昼食後下山→(12:40) 石神様→(車で)→(13:00) 鱒ヶ沢スキー場


植物にも動物にも素人の私なので、写真を撮ってきた植物は、サワギキョウとモウセンゴケ。動物は、金網持参で、捕獲したものを専門家に同定していただき、マメゲンゴロウ、ミヤマミズスマシ(以上、森正人先生同定)、オオルリボシヤンマのヤゴ(11令、7令、6令、5令、4令)(奈良岡弘治先生同定)と判明しました。来年は是非、植物、動物の専門家にご同行願いたいものです。



## \*会員継続と2020年度会費納入のお願い\*

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度の会費を未納の方には引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

## \*幹事募集と幹事会への参加呼びかけ\*

 会の企画・運営に参加して下さる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか? 日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。百石町展示館2F 午後6時~。

## ※編集後記

りんごの収穫も終え、冬はゆっくり出来るかと思いきやりんごの発送作業に忙殺されりんごの雪囲いもままならない日々です。それでも今年はまだ積雪が少ないので作業しやすく助かっています。さて、米誌タイムが選ぶ「今年の人」に16歳の環境活動家、グレタ・トゥンベリさんが選ばれたようです。

彼女に対しては現実から目を逸らしたいみっともない大人が批判を浴びせています。最も有名なところではトランプ大統領、次にブラジルのトランプと呼ばれるボルソナロ大統領、日本では同じく環境活動家であるはずの野口健氏までもがグレタさんを揶揄するような投稿をツイッターでしています。地球温暖化が人類にとっての危機であることは今更言うまでもないですよ? 解決に向かって取り組むべきリーダー達がやるべきことをやらず16歳の少女相手にムキになっている。実にみっともないことです。彼らにはグレタさんが生意気に見えるのでしょう。凶星を突かれて焦っているのかもしれませんが。でもいくらグレタさんを批判したところで問題解決には無意味です。かつてゴア米副大統領が地球温暖化に警鐘を鳴らした時、彼自身の贅沢な暮らしが批判されました。また、先進国が先に経済的繁栄を享受しておきながら発展途上国にはエネルギーを使うなというのかという問題もあります。環境問題というのはこのような囚人のジレンマです。先頭に立った者が不利益を被ります。まずリーダーが問題解決に取り組まなくてははいけません。

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第80号(2019年12月21日)発行/岩木山を考える会 会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910 事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614 郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会
---